

令和5年度第2回箕面市支援教育充実検討委員会 議事録

日 時：令和5年12月18日（月）午後6時30分から午後8時00分

場 所：オンライン開催

出席者：伊丹委員長、小田委員、野口委員、中西委員、辻野委員、俵積田委員、佐藤委員、
脇委員、柳原委員、吉川委員、ゆうやけの会代表者、つばさの会代表者
新居教員（小学校通級担当者）、文教員（中学校通級担当者）

事務局：藤村副教育長、藪本小中一貫教育推進監、金城学校教育監、瀧口担当副部長、大上保
育・幼児教育センター長、柴田教職員人事室長兼教育センター所長

人権施策室：後藤室長補佐、川田室長補佐、赤城室長補佐、田口参事、大坪参事

傍聴者：4名

1. 開会

（伊丹委員長）

定刻となりましたので、令和5年度第2回箕面市支援教育充実検討委員会を開催いたします。本日司会を務めさせていただきます、委員長の伊丹でございます。よろしくお願いいたします。

それでは早速、案件1「箕面市支援教育方針に基づく施策の検証について」事務局より説明をお願いいたします。

2. 議事

案件1 箕面市支援教育方針に基づく施策の検証について

（事務局：後藤室長補佐）

○資料に基づいて事務局から説明

（伊丹委員長）

ご説明ありがとうございます。4ページに検討の際の視点として挙げられている「一人ひとりに個別最適な自立活動を実施するための工夫や手立てはあるか」について、ご意見やご質問はございますでしょうか。

（脇委員）

経験が浅い支援学級担任の先生が増加していますので、自立活動に関する研修を受講していただいていると思いますが、箕面市全体として、実践交流等も活発に行っていかなければならないと思っています。学校の中でも相談はできますが、経験の豊富な先生が少ないので、アドバイスできる人がもう少し増えるといいと思います。

（伊丹委員長）

貴重なご意見ありがとうございます。学校によって、年数のバランスにばらつきがあるところもあるかと思いますが、全市的にコミュニケーションの場を設けることが非常に重要であると思います。その他、ご意見ございますでしょうか。

（つばさの会代表者）

保護者の意見としては、個別にという形であるために、先生がたと保護者とのコミュニケーションを常に意識していただければ嬉しいです。また、特に中学校では支援が必要な子どもを持つ保護者同士が集まる機会も少ないため、先生がたも、お忙しくて大変だとは思いますが、そのような機会を持っていただければ、自立活動に向けた保護者の意見もより取り入れていただけるのではないかと思います。

（伊丹委員長）

個別の支援計画・指導計画は、保護者の願いを最優先しながら作成することとなっていますので、意見交換の機会は大切だと思います。その他、ご意見ございますでしょうか。

(新居教員)

4ページの改善点に「『ともに学び ともに育つ』というが、誰か大人が側にいるだけでは、最適な支援が行えていると思えず、児童生徒同士の繋がりが薄いと感じることもある。」と記載がありますが、個別の自立活動ももちろん大事ですが、クラスの集団づくりも大切だと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。子ども同士を否定し合わない視点を持って通常学級における支援をされていると伺いましたので、そのような取り組みが箕面市全体に広がっていけば本当にいいことだと感じております。その他、ご意見ございますでしょうか。

(野口委員)

先ほどの脇委員のご意見にとっても賛同します。また、新居委員もおっしゃっていたように、自立活動は個別の時間の話だけではなく、通常学級で過ごす時間をいかに自立活動を意識して、その子どもに対して支援ができるかというところがとても重要になるかと思えます。

私も研究授業等で入らせていただく中で、全体の授業案と個別の子どもの教科目標や自立活動の目標という形で指導案を作成していただき、支援学級担任や支援教育支援員が通常学級の中でどのように自立活動を意識して支援していくのかというノウハウが今後、箕面市全体で広がっていくと、とてもいいと感じます。例えば、そのような指導案のフォーマットを作成したり、既に作成されている指導案を共有できるような環境をウェブサイト上に作成したりするのもいいと思います。既に良い実践をされている先生がたくさんいらっしゃいますが、実際に自立活動の支援を通常学級の中で行っている、それが言語化されていない部分もあると思いますので、このようなことができれば、さらに充実していくと思いました。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。その他、ご意見ございますでしょうか。

(中西委員)

私は4ページの改善点「一人ひとりに個別最適な自立活動を実施するために必要な教室が足りていない。」が気になっています。来年度、本校でも教室数が少し足りない状態なので、1つの通常学級の教室をパーティションで2つ、3つに区切って支援学級の活動の場を確保しています。そのため、今後も自立活動を充実させて展開するために場所の確保が大切であると感じました。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。私もこの部分に関しては、少し気になっていました。箕面市としては、調査等は行ったりしておられますでしょうか。事務局のかた、いかがですか。

(事務局：後藤室長補佐)

皆さま、ご意見ありがとうございます。箕面市は比較的人口が増加していることと合わせまして、国の方針に対して、1年前倒しで35人学級を実施していますので、教室数が確保しにくい現状があると思います。現在、箕面市では、どの校区で、どの程度、子どもが増加するかを推計しています。直近の例で言いますと、萱野東小学校で増築工事を行ったりしています。このような大規模な増築工事はあらかじめ計画を立てて取り組むことですので、教室数が不足している状態の学校もあるのが現状です。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。このような点も把握し、改善していただけるといいと思います。

続きまして、「通級指導教室の全校設置について」でございます。事務局より説明をお願いいたします。

(事務局：後藤室長補佐)

○資料に基づいて事務局から説明

(伊丹委員長)

ご説明ありがとうございます。7ページに検討の際の視点として挙げられている「担当する児童生徒数が多い場合、効果的な支援方法の手立てはあるか。」について、ご意見やご質問を伺いたいと思います。まず、小学校で通級を担当していただいております新居教員、ご意見等ございますでしょうか。

(新居教員)

今年度、全校設置となり本当に助かっています。ありがとうございます。ただ、改善点にも記載があるとおり、一人あたりの担当する児童生徒の数が多くなっていると感じます。また、今後も13の倍数の26人以上になると通級指導担当者を2人確保すると聞いています。つまり、25人までは1人で担当することとなり、負担が大きくなると思いますので、可能であれば、14人以上で通級指導担当者を複数配置していただけたら非常に動きやすくなると思います。

(伊丹委員長)

新居教員、ありがとうございます。文教員はいかがですか。

(文教員)

中学校は小学校と少し異なる部分があるのかもしれませんが、内容によってはグループ指導が難しい場合もあります。一方で、個別対応が必要な生徒もいますので時間の確保がすごく難しいと感じています。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。箕面市としては、通級指導教室の複数配置校はありますか。

(事務局：後藤室長補佐)

今年度より箕面市立の全小中校に設置いたしました。現状といたしましては、複数配置校はございません。

(伊丹委員長)

複数配置に向けて動いている他市もあると聞いております。やはり、1時間から8時間までという幅がある中で、13人と決めていくことは非常に難しいことだと思います。そのため、この点に関しては、柔軟に捉えていく必要があると思われました。その他、ご意見ございますでしょうか。

(事務局：後藤室長補佐)

事務局からの補足ですが、令和6年度につきましては、大阪府に対して、「複数の学校で2名配置をしたい」と要望しています。ただ、要望ですので、最終的な配置の確約は現時点でいただいている状況ではありませんが、箕面市としては複数配置をしていきたいという方向性で動かせていただいています。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。ぜひとも頑張っていただけたらうれしいです。その他、ご意見ございますでしょうか。

(協委員)

現在、支援学級から通常学級に学びの場を変更し、通級指導教室を利用する生徒も増加しています。先ほど文教員もおっしゃっていたとおり、中学校では、個別の指導が合っている生徒

が比較的多いので、時数的に詰まった状況の中で指導を実施されています。また、通常学級にも巡回指導されていますので、そこでの見立てを確認し、通級指導教室での支援に返して下さっていますが、なかなか厳しい現状です。今年度、通級指導教室が自校設置になり、さらに生徒に関わる機会が増えましたので、このように感じているのだと思います。ただ、たくさんアドバイスをいただく機会もできたり、支援学級とのつながりも持っていますので、そこはとも助かっている部分です。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。やはり、支援学級との連携は、非常に大事だと思います。また、小学校と中学校では指導する内容も変わってくると思いますので、それぞれの悩みも出てくると思います。そのため、このような内容も共有していきながら解決していく必要があると思います。その他、「効果的な手立て」についてご意見ございますでしょうか。

(佐藤委員)

私は、通級指導教室を担当していますが、担任の先生や教科担当の先生との連携が大事だと思います。子どもの得意なことや苦手なことをきちんと理解していただき、「このような時はこのような手を打っていただけたら通常学級でも輝ける」ということや、「ここはきちんと取り組んだので、手をあげたら、あててあげてください」などを担任の先生や教科担当の先生がたにお伝えしています。そして、「子どもが通常学級でうれしそうにしていた」、「発言が増えた」などを教えていただくこともあり、すごく嬉しかったです。担当する児童生徒が増えると、抽出する時間の調整が難しくなると思いますので、時間割の調整なども必要になるかと思っています。

(伊丹委員長)

貴重なご意見ありがとうございます。やはり通常学級と連携し、考えながら支援していくことが大事だと思います。その他、ご意見ございますでしょうか。

(辻野委員)

効果的な支援方法というよりも通級指導教室で学んだことが、通常学級でどのように活かしているのかが大切だと思います。通級指導担当者も通級指導の教室だけで指導するにとどまらず、通常学級でその子どもがどのように学んでいるのかというその姿を見ていただくことで、担任との連携も図りやすくなると思います。また、実際に見ることで、通級指導教室での取り組み方も見えてくるかと思っています。担当する児童生徒数が多くなると、通常学級に行く時間も確保できなくなるので、箕面市として、複数配置も進めていただけたらと思います。よろしくお願いたします。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。この視点も非常に大事なことだと思います。現在、通級指導教室での指導は、マン・ツー・マンで取り組まれているケースが多いのでしょうか。また、複数の児童生徒が同時に同じような自立活動の目的に取り組むことはありますか。

(辻野委員)

小学校では、よく似た課題を持っている子どもたちを集めて自立活動に取り組んでいます。1人だと学習が進まない子どもも同じような友だちがいることで、やる気が出る場合もありますので、一人ひとりの子どもの状況に合わせて、個別で取り組むこと、複数人で取り組むことを考えて、手立てしていただいています。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。やはりモデリングの観点からも、ともに学ぶことにもつながっていくと思います。そして、多様なニーズに対応するために、指導方法を工夫していかなければならないと感じております。その他、ご意見ございますでしょうか。

(小田委員)

通級と、先ほどの自立活動において、共通することは、効果的な支援方法を考えるということ、個別の指導計画の精度をどれだけ高めるかということでもあると思います。的確な実態把握が効果的な支援に繋がることは言うまでもありません。どのように複数の同意をもとに個別の指導計画を作成していくのが、支援の手立ての基本になると思います。また、通級を担当する教員の複数配置は、やはり効果的だと思います。参考になるかはわかりませんが、小学校等の教員をめざす学生に学生支援ボランティアとして来ていただくこと等も有効だと思います。学生にとっても、今後に向けてこの経験が有効になると思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。学生にとっても本当に大きな学びになると思いますので、ぜひ活用いただけたらと思います。その他、ご意見ございますでしょうか。

(ゆうやけの会代表者)

今年度、ゆうやけの会で活動させていただき、「支援学級の内容はわかるけれど、通級指導教室の内容がわからない」という保護者がすごく多いと思いました。また、学校からの説明も支援学級の内容のほうが多いと感じています。

(協委員)

今年度、人権施策室が行った入級に際する説明をもとに、本校の入級説明会で支援学級と通級指導教室の説明を例年よりも丁寧にさせていただきました。今年度からは、これまでよりしっかりと説明されている学校が多いのではないかと思います。

(事務局：後藤室長補佐)

事務局といたしましても、現在、各校でそのような動きがあるとお伺いしています。令和5年度は、既に新小学校1年生と新中学校1年生になられるお子さまがいる保護者を対象にご説明をさせていただきました。加えて、現在、お子さまが支援学級に入級されている保護者に対しても、再度、支援学級や通級指導教室に関するご説明をする場を設ける予定です。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。新たに入学されるかたのみではなく、現在、支援学級を利用されているすべての保護者に対して、再度ご説明いただく必要があると思いました。

引き続き、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局：後藤室長補佐)

○資料に基づいて事務局から説明

(伊丹委員長)

ありがとうございました。13ページに検討の際の視点として挙げられております「支援教育支援員のスキル向上のために研修以外にどのような工夫をすればよいか。」について、ご意見やご質問はございますでしょうか。柳原委員、いかがでしょうか。

(柳原委員)

現在、小学校の現場では、支援学級から通級指導教室に学びの場を移した児童数はあまり多くなく、私の周りではいません。そのため、名称は変更されましたが、私たちが支援している児童は今までとあまり変わらず支援学級に在籍している児童ですので、変更に関する実感が持っていないというのが正直なところです。ただ、名称変更に伴って、優先順位はあるとしても、支援学級の児童だけではなく、在籍する学級に関わらず様々な児童を支援できる場所がいいと思います。例えば、支援学級に在籍にしている、支援教育支援員より通常学級の先生の言葉の方が聞きやすい児童がいる場合、通常学級担任の先生がその児童を見てくださる代わり

に、支援教育支援員が周りの児童を支援するという体制で、幅広く対応できるようになったことは、以前よりよくなった部分だと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。吉川委員はいかがでしょう。

(吉川委員)

支援教育支援員は実践の研修をする機会が少なく、支援をしている際は個々で動いていますので、口頭で他の支援教育支援員や支援学級担任の先生などがどのような支援しているのかを確認している状況です。実際に見ることやペアになって取り組む機会が少ないので、そのような機会を設けるとスキルも上がってくると思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。本当に貴重なご意見だと思います。実際に見ないとわからないことでもありますので、見学する時間を設ける等、実践的な研修が現場において、大事だと思いました。その他、ご意見ございますでしょうか。

(協委員)

本校では支援学級に在籍する生徒と通級指導教室を利用する生徒数が多いため、より深く、この子どもは「このような支援があるといいね」など支援学級担任と支援教育支援員が支援の方法について話す時間の確保が難しいと感じます。また、支援教育支援員の名称変更についてですが、今までどおり支援学級に在籍している生徒や通級指導教室を利用している生徒は見ていただけますが、通常学級に在籍し、通級指導教室も利用していない生徒への支援までは、なかなか難しい部分もあると思います。

(伊丹委員長)

現場の生の声、ありがとうございます。
引き続き、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局：後藤室長補佐)

○資料に基づいて事務局から説明

(事務局：後藤室長補佐)

先ほどご意見いただきましたように支援学級担任と支援教育支援員がペアを組み、支援担任の先生に見ていただいたりなど、実践いただくことが非常に効果的であると思われました。事務局といたしましては、今学期の終業式の日、任期付支援教育支援員と通級指導担当者の連携を狙いとした研修を実施する予定です。

(伊丹委員長)

説明並びに補足いただきありがとうございます。16ページに検討の際の視点として挙げられている「専門性が高い任期付の支援教育支援員と会計年度任用職員の支援教育支援員の違いと求められる役割について」ご意見やご質問はございますでしょうか。支援教育支援員のお二人はいかがでしょう。

(吉川委員)

任期付支援教育支援員には、経験とスキルを持ち備えたかたがたくさんおられます。また、今年度から任期付支援教育支援員は、会計年度任用職員の支援教育支援員の方々の勤退の把握や研修案内等を行っています。大規模校では人数が多いため、任期付支援教育支援員を複数配置していただきたいです。そして、増やしていただくために、今後も任期付支援教育支援員としての意識を高めて現場で役に立つような働きをしていきたいと思っています。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。柳原委員はいかがでしょう。

(柳原委員)

吉川委員が、全ておっしゃってくださいましたが、私たち任期付支援教育支援員は自分の持っている力を活かしながら、会計年度任用職員の支援教育支援員や支援学級担任など、みなさんにつながる機会を持つことができるように仕事をさせていただいています。そのため、そのような人材が各校に1人でも増えることを期待しています。よろしくお願いいたします。

(伊丹委員長)

増員は非常にいいことであると思います。その他、ご意見ございますでしょうか。

(つばさの会代表者)

親の立場から見ますと、任期付と会計年度任用職員に違いはなく、あくまで、「支援教育支援員」ですので、求められる役割というのは一緒だと思います。また、名称変更に伴い、業務内容も変更されましたが、負担になっていないかが不安です。そのため、増員と人材育成の2点が必要であると思います。

(伊丹委員長)

貴重なご意見ありがとうございます。引き続き、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局：後藤室長補佐)

○資料に基づいて事務局から説明

(伊丹委員長)

ご説明ありがとうございます。19ページの検討の際の視点と挙げられている「効果的な研修方法や研修内容について」ご意見やご質問はございますでしょうか。

(脇委員)

初任者研修は毎年実施していただいていると思いますが、例えば、5年目研修や10年目研修等、節目になる年数で実践例とこれまでの自分たちが取り組んできたことを照らし合わせて改善点等を見つけたりする研修も効果的であると思います。また、通常学級担任等を対象とした研修もより充実していただけると、校内からの発信もしやすくなると感じています。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。小田委員はさまざまな市町村で研修をされていると思いますが、どのような研修が効果的であると思いますか。

(小田委員)

研修は受け身ではなく、「問題意識」を持って取り組んでいただき、1回限りではなく、継続して繰り返し、研修を実施することが大切だと思います。また、理論だけでなく、質問やディスカッションも含めた研修がより深みがあると思います。

(伊丹委員長)

そのとおりだと思います。また、先ほど脇委員がおっしゃっていたように、通常学級担任にも支援教育に関する研修ができればいいと思います。

(新居委員)

私は実践交流や実践報告がすごく大事だと思います。具体的に、中学校の教科担当の先生や小学校の通常学級担任の先生など多くの先生が合理的配慮をしてくださるので、そのような点を、交流を通して、お互いに学び合える機会があればいいと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。その他、ご意見ございますでしょうか。

(佐藤委員)

私は小田委員からいただいた自立活動のリストと検討目標設定のリストを支援学級担任などにもお配りして、支援の方法が合っているかなどを確認しています。このように確認できるツール等があればいいと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。19ページの改善点に「研修を受講する時間がない」と記載がありますが、オンデマンド配信等はしていないのでしょうか。

(事務局：田口参事)

今年度はオンデマンド研修をかなり増やして実施いたしました。ただ、講師の先生等のご都合等もありますので、全ての研修をオンデマンド配信にすることは難しいです。引き続き、皆さまの合意をもとに、可能な限りオンデマンド配信の対応を行っていく予定です。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。理論だけでなく、実践的な交流が大切となるので、オンデマンド配信を活用しながらすべての先生が受講できる環境を整えていただきたいと思います。その他、ご意見ございますでしょうか。

(辻野委員)

本校では、来年度の自立活動に関する案を作成しています。佐藤委員から「小田委員からいただいた自立活動のリストがとても有効的です」と伺いました。もし可能であれば、そのリストを共有していただきたいのですが、いかがでしょうか。

(小田委員)

新しいものを作成しましたので、ぜひご活用ください。

(辻野委員)

ありがとうございます。よろしく申し上げます。

(伊丹委員長)

ぜひ、箕面市で小田委員のリストをご活用いただけるといいと思います。
引き続き、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局：後藤室長補佐)

○資料に基づいて事務局から説明

(伊丹委員長)

ありがとうございました。22ページの検討の際の視点に挙げられている「支援教育コーディネーターの効果的な校内での動き方など工夫はあるか。」についてご意見やご質問はございますでしょうか。

(協委員)

今年度、加配教員として専任で支援教育コーディネーターを担当しています。専任なので、PBSやアイチェック等を活用しながら、「この生徒にはこのような手立てができる」などを改めて確認、分析することができましたので、大変ありがたいと思っています。しかし、今年度は研修も多くありましたので、校内をゆっくり巡回して、生徒をみるという時間が少ししか取れなかったと感じています。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。佐藤委員はいかがでしょう。

(佐藤委員)

私もいろんな子どもに声かけしていきたいと思っていましたが、思っていたようには動けなかったと思います。ただ、支援教育支援員とは4月の業務内容変更の際に「この子はここが苦手だからこのように支援してあげてね」「この点で困っていたら私にも相談してね」などを共有できたので、その点はよかったと思います。また、夏休みには支援学級担当や支援教育支援員を対象に研修会を実施したのですが、任期付支援教育支援員はよく子どものことを見てくださっているなどと思いました。あと、支援計画や指導計画の作成が難しいと感じる支援学級担任と一緒にLITALICO教育ソフトを活用して支援の方法について考えることができたところもよかったです。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。その他、ご意見ございますでしょうか。

(中西委員)

加えて、校内では、様々な支援会議がありますが、そこで佐藤委員は支援教育コーディネーターとして支援関係や生徒指導関係の教員たちとをつないでくださっています。また、校内授業研究にも参加していただき非常に助かっています。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。私も支援教育コーディネーターを担当していましたが、つなぐ役割や授業研究も重要だと思いました。ぜひ、専任を増やしていく方向で取り組んでいただければと思います。

(小田委員)

箕面市は各校に、支援教育コーディネーターは1人ですか。

(事務局：後藤室長補佐)

各校の状況にもよりますが、複数配置の学校が多いです。例えば、養護教諭の先生や生徒指導の先生も支援教育コーディネーターを担当されている場合も多くあります。

(小田委員)

つまり、転勤したとしても補えるような体制になっているということでしょうか。

(事務局：後藤室長補佐)

はい。そのような体制を構築しております。

(小田委員)

もう1点確認なのですが、指名ではなく加配でしょうか。

(事務局：後藤室長補佐)

今年度、箕面市内の5校の学校に、支援学級をメインに見ていただく支援教育コーディネーターを加配し、専任で支援教育コーディネーター業務に携わっていただいております。

(小田委員)

つまり、複数で支援教育コーディネーターを担当してる学校については加配と指名のかたがいるということでしょうか。

(事務局：後藤室長補佐)

はい。そのような形になっています。

(小田委員)

ありがとうございます。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。引き続き、事務局よりご説明をお願いします。

(事務局：後藤室長補佐)

○資料に基づいて事務局から説明

(伊丹委員長)

ご説明をありがとうございます。43ページの検討の際の視点として挙げられている「保護者や児童生徒に納得してもらえるように、どのような工夫や手立てがあるか。」について、ご意見やご質問はございますでしょうか。

(つばさの会代表者)

私としては「ともに学び ともに育つ」教育を引き続き行っていただける点にとっても感謝しています。そして、保護者には、学力アップをめざしているかたもいらっしゃるれば、自立支援や自立活動等に重視を置いているかたもいらっしゃると思いますので、両者に納得していただくためには個別にニーズを聞いていただき、対応いただく必要があると思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。一人ひとりのニーズに応えることは大事です。ゆうやけの会代表者はいかがでしょうか。

(ゆうやけの会代表者)

保護者としては国通知に関してわからないことが多いです。年明けに学校で説明会を開催していただけるので、その際に先生がたに伺いたいという保護者のかたもおられます。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。納得していただくためには、きちんとした説明が欠かせないと思います。ありがとうございました。その他、ご意見ございますでしょうか。

(中西校長)

説明する側といたしましては、箕面市が他市と異なり柔軟に対応いただいていることを、すごく丁寧に説明してるつもりですが、誤解が起こることもありますので、個別にきちんと確認することも大事なところだと思いました。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。引き続き、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局：後藤室長補佐)

○資料に基づいて事務局から説明

(伊丹委員長)

ありがとうございます。46ページの検討の際の視点に挙げられている「支援教育専門員の今後の動き方について、どのような工夫や手立てがあるか。」について、ご意見やご質問ございますでしょうか。まず、支援教育専門員でもおられる事務局の田口参事、いかがでしょうか。

(事務局：田口参事)

今年度、全ての学校に均等に回るのは難しいところがありました。先生がたと継続的に関わった学校については、比較的、肯定的なご回答をいただいていると思いますが、「わからない」という回答もありますので、このあたりは課題として、真摯に受け止め、今後改善していければと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございます。現在は、支援教育コーディネーターを加配している5校に行かれていますということでしょうか。

(事務局：田口参事)

この支援教育コーディネーターの加配の5校に加えて、学校からの要望やリクエストに応じて訪問し、管理職の先生と一緒に考えることが今年度は多かったと思います。

(伊丹委員長)

ありがとうございました。年数をかけながら定着していくことができれば、非常にいいことだと思います。ご尽力いただけたらありがたいです。

最後に、全体を通してご質問はございますでしょうか。

(新居委員)

今回はアンケートを実施し、わかりやすくまとめていただき、振り返ることができてよかったです。今後もこのようなアンケートを継続しながら現場の声を聞き、よりよいものにしていきたいと感じています。あと、40ページの「障害理解を含む人権研修」についてですが、そもそも箕面市支援教育充実検討委員会が始まったのは中学校でのいじめ事案がきっかけでしたので、障害理解を含む人権研修を引き続き丁寧にしていかないといけないと感じています。

(伊丹委員長)

貴重なご意見ありがとうございます。その他、ご意見ございますでしょうか。

(つばさの会代表者)

34ページの「校区連携の強化について」ですが、中学生の親の会としましては、高校等へのつながりも気になるところです。また、一旦支援を離れた後で、再度、支援が必要となった際に戻れるところのようなものがあればいいと思いました。

(伊丹委員長)

義務教育以降の支援に関する貴重なご意見、ありがとうございます。今後、大阪府立高校においても通級指導教室が設置される可能性もありますので、そのあたりの連携も大事にいただけたらうれしいです。丁寧に現場の声をくみ上げて、膨大なアンケートを丁寧にまとめていただいたき、本当によかったです。

では、案件2「その他」について事務局から何かございますでしょうか。

案件2 その他

(事務局：後藤室長補佐)

皆さま、たくさんのご意見とご議論ありがとうございます。現場の教職員の先生がたの意見をきちんと聞きたいという意図で今回アンケートを実施させていただきました。アンケートの回答は、全体的に肯定的な意見が多かったのですが、「わからない」という回答もあつたり、管理職の先生と現場の先生の間で少し差がある等の課題も見えてきました。そのため、事務局といたしましても、このアンケート結果に真摯に向き合いながら、今後もきちんと取り組んでいきたいと思っています。ありがとうございます。

次回の開催につきましては、令和6年3月13日水曜日を予定しています。開催時刻と開催方法につきましては、18時半からZoomにてオンラインでの開催とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3. 閉会

(伊丹委員長)

令和5年度第2回箕面市支援教育充実検討委員会を閉会します。